



上 1914年1月12日午前11時半ごろの大正噴火の様子（鹿児島県立博物館所蔵） 下 井村隆介鹿児島大学准教授がA-技術を使ってカラーハ化したもの



授（京都大の井口正人名義）
模噴火前に島外避難する」とが必須。確実に避難を出すなければならないとした上で、「除去に10年かかるほどの大量の降灰が県内のどこかにある。全員的に考えておかないと

桜島大正噴火きょう111年

教訓生かし防災を

「噴火慣れた」専門家警鐘

20世紀で国内最大の噴火とされる桜島の大正噴火から121年で111年。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部には、大正噴火当時と同量のマグマが蓄積した状態という。鹿児島市や垂水市では11日、大規模噴火に備えた防災訓練があり、市民が火山の現状や避難行動について学んだ。専門家は「過去の教訓を生かすため、一人一人が大正噴火のことを知つておくべき」と話す。

一本島ノ爆発ハ古来歴史
二照シ、後日復亦免レザル
ハ必然ノコトナルベシ」
鹿児島市東桜島小学校
に立つ石碑は111年前の
教訓を伝える。群発地震や
地鳴りなどの前兆があり、
島民2万人の多くが事前に

避難したが、「噴火なし」とした測候所の判断を信じて島に残った人が犠牲となつた。「住民ハ理論ニ信頼セズ」の文言から「科学不信の碑」とも呼ばれる。鹿児島大学の井村隆介准教授（火山地質学）は「将來また起ころうという過去からのメッセージ」とし、「県噴火はさらにその100倍大正噴火は東西の山腹で噴火が始まり、活動は1年

鹿大の小林勵吾教授は、震度7の大地震では「巨大噴火の場合、複合災害になることが多い」とする。しかし、この地震の断層は見つかっていない。「分からぬことが多い、想定が難しい。ハザードマップをうのみにせず、状況が異なつても柔軟に対応できることが大事。次の巨大噴火で地震が起きるとは限らないが、耐震化や家具の固定など、命を守る対策は必要だ」と話した。

Q 桜島大噴火 ブーム

噴石、溶岩などの総量は約20億立方㍍に上り、大隅半島と陸続きになつた。島民約2万人の多くは避難したが、当口まで残つていた29人が犠牲になつた。対岸の鹿児島市側では家屋や石垣の倒壊、土砂崩れが相次ぎ、29人が死亡。小規模の津波も起きないが、その議論は進んでいない」と指摘する。

大正噴火の8時間後には鹿児島湾を震源とするマグニチュード7・1の地震も襲つた。対岸の鹿児島市街地で石垣の倒壊や地滑りが起き、犠牲者58人の半数は

11

2025年1月12日付17面

【問1】 桜島の大正噴火は、いつ起きたのでしょうか。

【問2】 桜島の大正噴火は、どんな噴火とされると書かれているでしょう。

【問3】 鹿児島市や垂水市では、2025年1月11日に何があったのでしょうか。

【問4】 111年前の噴火では、どんな人が犠牲になったのでしょうか。

【考えてみよう】 桜島の大きな噴火に備えてどんなことが必要か、家族や友達と話してみよう。

むずかしい漢字とことば

噴火(ふん・か) 始良(あいら)

湾奥(わん・おう) 蓄積(ちく・せき)

垂水(たる・みず)

大規模(だい・き・ぼ)

避難(ひ・なん)

専門(せん・もん) 石碑(せき・ひ)

地震(じ・しん) 犠牲(ぎ・せい)

理論(り・ろん) 信頼(しん・らい)

呼(よ)ばれ

准教授(じゅん・きょう・じゅ) = 大学や高等専門学校などの教員で、教授につぐ地位の人。

将来(しょう・らい)

警鐘(けい・しょう)を鳴らす = 何か問題が起こりそうな時に、危険を知らせ、警戒をうながすこと。

新燃岳(しん・もえ・だけ)

山腹(さん・ぶく) = 山の頂上とふもとの間。山の中ほど。

降(ふ)る 船舶(せん・ぱく)

難(むずか)しく

名譽教授(めい・よ・きょう・じゅ) = 大学や高等専門学校などで教授としてつとめた人や、特に学術上のすばらしい功績があった人へ、退職後に贈られる称号(しょう・ごう)。

除去(じょ・きょ) 降灰(こう・はい)

指摘(し・てき) 震源(しん・げん)

襲(おそ)う 石垣(いし・べい)

倒壊(とう・かい) = たおれこわれること。

地滑(じ・すべ)り

状況(じょう・きょう)

異(こと)なる

柔軟(じゅう・なん)

巨大(きょ・だい)

耐震(たい・しん)

対策(たい・さく)